



都道府県指導者養成研修  
(がん化学療法チーム研修企画)  
フォローアップ研修 課題



群馬大学医学部附属病院

医師 : 櫻井 麗子

薬剤師 : 勝見 重昭

MSW : 林 陽子

看護師 : 小野澤 由美子

2023/11/25



病院名 群馬大学医学部附属病院\_\_都  
道府県名 群馬県



## 都道府県の情報

都道府県内の総人口

1902, 834 人  
(令和5年4月時点)

がん死亡者数 (%)

5, 993 人 (25%)  
(令和3年度)

高齢

化率

31.0 %  
(令和4年10月1日時点)



## 群馬県のがん患者の状況

	死亡率				罹患率			
	男性		女性		男性		女性	
1	肺	24.5%	大腸	16.5%	前立腺	19.1%	乳房	22.6%
2	胃	14.4%	肺	12.9%	大腸	16.4%	大腸	16.4%
3	大腸	12.2%	膵臓	11.4%	胃	15.4%	肺	9.5%
4	肝および肝 内胆管	7.4%	胃	9.4%	肺	14.8%	胃	9.1%

### 群馬県の罹患率・死亡率の概要

2019年に群馬県において、男性で最も多いがんは前立腺がんであり、女性で最も多いがんは乳がんであった。死亡率は男女でに肺がんが多かった。

死亡された方の男性約89%、女性も約86%が65歳以上であった。年齢が高くなるほど罹患しやすいため、がんによる死亡者も高齢者が多い。



## がん診療連携拠点病院の情報

都道府県がん診療連携拠点病 1 施設  
**群馬大学医学部附属病院 731 床**

地域がん診療連携拠点病院 8 施設

- ・ 前橋赤十字病院 555 床
- ・ 高崎総合医療センター 485 床
- ・ 渋川医療センター 450 床
- ・ 公立藤岡総合病院 399 床
- ・ 公立富岡総合病院 328 床
- ・ 伊勢崎市民病院 494 床
- ・ 桐生厚生総合病院 424 床
- ・ 群馬県立がんセンター 314 床



## がん診療病院の情報

どこに住んでいても、がんの状態に応じて適切ながん医療が受けられるように県指定の「**群馬県がん診療連携推進病院**」を整備している

群馬県がん診療連携推進病院 8 施設

- ・ 群馬県済生会前橋病院 323 床
- ・ JCHO群馬中央病院 333 床
- ・ 日高病院 287 床
- ・ 原町赤十字病院 199 床
- ・ 沼田病院 179 床
- ・ 利根中央病院 253 床
- ・ 太田記念病院 404 床
- ・ 公立館林厚生病院 323 床

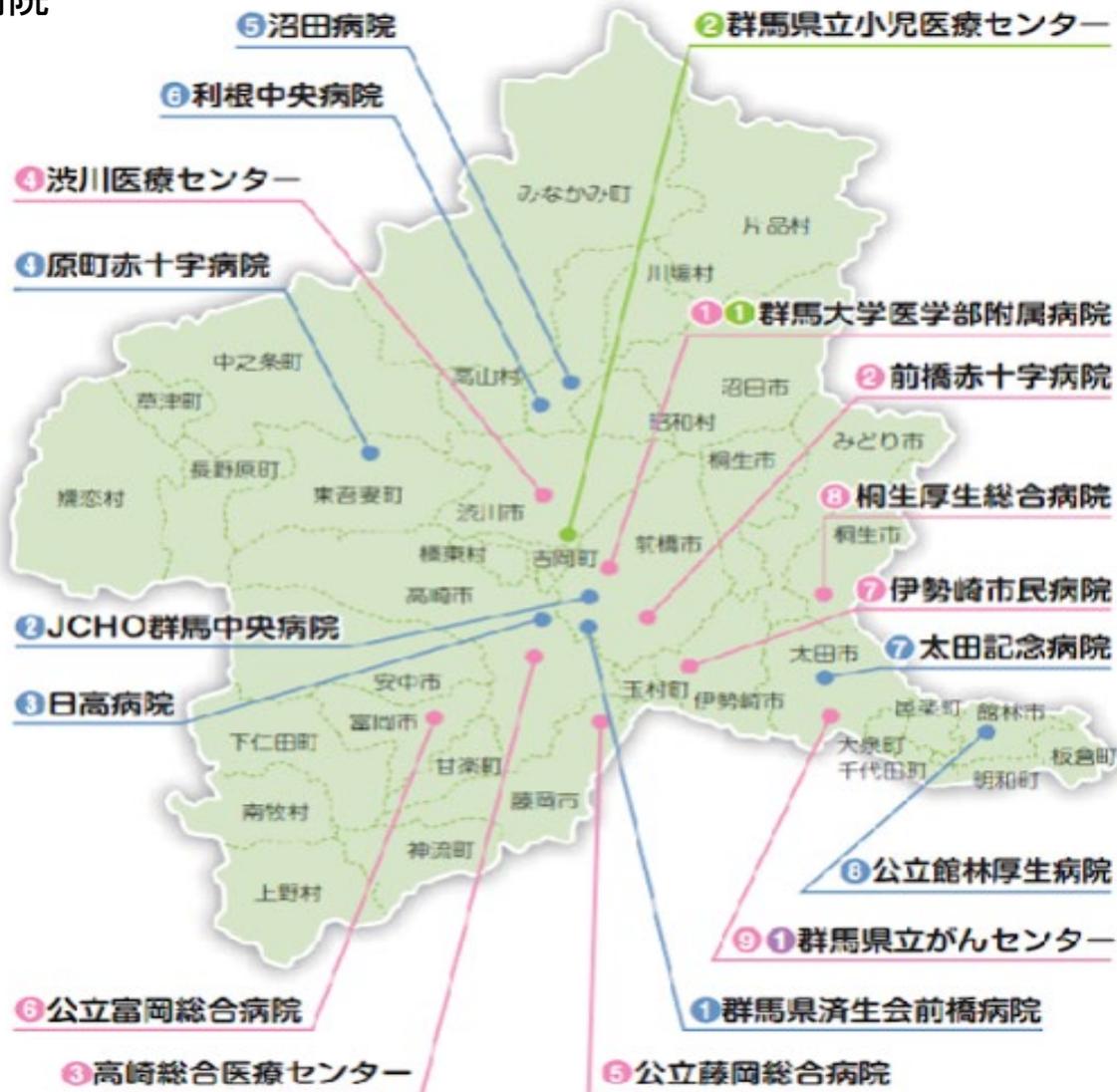
## 群馬県におけるがん医療の特性

- ・ 前橋、高崎を中心とした県中央部に医療機関が集中している  
→ 北部～西部地域においては広大な面積に対して、医療機関が点在する状況であり、拠点病院が少なく医療体制に偏りがある
- ・ 地域によって、社会資源の活用可能な範囲に差がある
- ・ 自動車保有率が高く、公共の交通機関が発達していない  
→ 運転ができない患者や高齢者の通院が大変である
- ・ がん患者や家族に役立つ情報を得やすい冊子が作成されている  
→ 「ぐんまのがん安心がんサポートブック(第12版)」
- ・ 「患者会」や「ピアサポーターの支援」が充実している



病院名 群馬大学医学部附属病院

都道府県名 群馬県



## 群馬県におけるがん化学療法の現状と課題

### 【現状】

- ◆ 免疫チェックポイント阻害薬の施設間格差がある
- ◆ がんゲノム医療について施設間格差がある
- ◆ 抗がん薬曝露対策の施設間の格差がある
- ◆ 免疫チェックポイント阻害薬＋Chemolに対する対策
- ◆ AYA世代・妊孕性について情報提供・体制が十分でない
- ◆ 在宅ポンプの管理について、施設間によって対応が異なる
- ◆ 新規抗がん薬開始時の各職種の関わり方が十分でない
- ◆ 緩和ケアへの移行がスムーズに行えていないケースもある
- ◆ 経口抗がん薬の導入・フォローアップ体制が十分でない
- ◆ 治療費・診療先の選択・就労等に対する情報提供や対応できる体制が十分でない

## 群馬県におけるがん化学療法の現状と課題

### 【現状】

- ◆ 免疫チェックポイント薬の施設間格差がある
- ◆ がんゲノム医療について
- ◆ 抗がん薬曝露対策の施設間の格差がある
- ◆ 免疫チェックポイント阻害薬＋Chemolに対する対策
- ◆ AYA世代・妊孕性について情報提供・体制が十分でない
- ◆ 在宅ポンプに対するケアについて
- ◆ 新規抗がん薬開始時の各職種の関わり方が十分でない
- ◆ 緩和ケアへの移行がスムーズに行えていないケースもある
- ◆ **経口抗がん薬の導入・フォローアップ体制が十分でない**
- ◆ 治療費・診療先の選択・就労等に対する情報提供や対応できる体制が十分でない

## 群馬県におけるがん化学療法の現状と課題

### 【現状】まとめ

- ・ 経口抗がん薬の種類は増加しており、さらに適応となるがん種も増加しているが、外来で導入され、院外処方となることがほとんどであり、医師の診察はあるものの看護師・薬剤師の関わりは少ない。  
(経口抗がん薬は処方・副作用対策が外来主治医のみの判断となることが多く、多職種の間が注射用抗がん薬と比べて少ないことが多く、さらに施設間での多職種の関わり方にも差がある)
- ・ 高額な経口抗がん薬も多く、効果あれば継続治療となるため、治療期間が長期間に渡り、治療費用等が問題となるが、MSWとの連携が十分に行えていない。
- ・ 経口抗がん薬は院外薬局の連携も重要になっているが、連携も十分に行えていない。

## 群馬県におけるがん化学療法の現状と課題

### 【課題】 まとめ

- ・ 経口抗がん薬の処方・副作用対策に、医師だけでなく薬剤師、看護師も関わり、さらに治療費用負担に関してMSWといった、多職種の間与が必要であり、体制作りが必要である。(導入時およびフォローアップ時に多職種で連携を行い、安全で効果的な治療を患者に提供できる体制を構築する)
- ・ 各職種の役割を理解し、治療開始～継続にあたってスムーズに連携できる医療チームをつくる。
- ・ 院外処方が多く、薬剤師間の情報共有が難しい。
- ・ 他医療機関や保険薬局と連携したフォローアップ体制を構築する。
- ・ 薬剤に合わせた副作用の知識と対処方法を学ぶ必要があるが、その機会が少ない。



病院名 群馬大学医学部附属病院  
都道府県名 群馬県



## 都道府県単位でがん医療の質向上に資する活動

令和4年度群馬県がん診療協議会がん化学療法チーム研修開催

### 目的

群馬県内のがん診療拠点病院等におけるがん薬物療法に関わるチーム（医師・薬剤師・看護師・医療ソーシャルワーカー）が、経口抗がん薬に関する課題解決に向けて各職種**の強みを生かし、安全で効果的ながん薬物療法を提供できるようになること。**

### 目標

- ・講義やグループワークを通して、各施設単位で課題解決に向けて取り組む。
- ・他施設の取り組みを参考に、自施設の地域・特性を踏まえた具体的な活動計画を立案する。

### 参加施設

群馬県内のがん診療連携拠点病院 4施設を募集

# 研修の概要

## 【タイトル】

「経口抗がん薬の導入・フォローアップ体制」について

## 【目的】

経口抗がん薬の患者指導とフォローアップ体制の構築・ブラッシュアップを目指す

## 【対象者・人数】

- ・群馬県診療連携拠点病院を主体に参加を募る（原則、医師・薬剤師・看護師・MSWだが、3職種でも可）
- ・前回参加していただいた4施設の中から1施設に講演orファシリテーターを依頼する  
⇒事前にeラーニング等で学習していただき、全体でディスカッションを検討

## 【目標】

一般目標（GIO）

- ・経口抗がん薬の患者指導とフォローアップ体制の構築ができる

到達目標（SBO）

- ・他施設の取り組みを参考に、自施設の特性や地域連携を踏まえた具体的な活動計画を立案する。



# プログラム

## 1日目

開始	終了	時間	研修方法	内容
13 : 00	13 : 10	10	オリエンテーション	研修内容説明
13 : 10	13 : 30	20	新規参加施設発表	参加施設の紹介
13 : 30	13 : 50	20	前回参加施設発表	前回参加施設活動報告(1施設) 質疑応答
13 : 50	14 : 00	10	休憩	
14 : 00	14 : 40	40	職種同士での グループワーク	
14 : 40	14 : 50	10	休憩	
14 : 50	15 : 50	60	参加施設内での グループワーク	
15 : 50	16 : 00	10	休憩	



# プログラム

## 1日目

開始	終了	時間	研修方法	内容
16 : 00	16:40	40		各施設毎の発表
16 : 40	16 : 50	10	総評（開催施設）	
16 : 50	17 : 00	10	アンケート	研修直後に記入し解散



# 研修の評価

---

## 【実施評価】

研修直後の受講者アンケート

## 【結果評価】

研修3か月後のアンケート(現状の変化を確認)

## 【企画評価】

研修会終了後のファシリテーター及び、企画運営者による振り返り